



札幌市立共栄小学校

URL <https://www.kyoei-e.sapporo-c.ed.jp/>

e-mail kyoei-e@sapporo-c.ed.jp

ああ、そういうことか！＜学びが深まる授業をめざして＞

研修部長 石田晃大

3（スリー）ヒントクイズをご存じでしょうか。答えを表すヒントを3つ出し、その答えを当てるというものです。問題を出す人は、一つずつ順番にヒントを出し、その都度答えを尋ねます。例えば、次のような問題です。

何でしょう？ ヒント1 手足は丸いです。ヒント2 ロボットです。ヒント3 ポケットが付いています。

答えは「ドラえもん」です。誰でも分かるような簡単な問題……に思えますが、やってみると案外答えに迷うものです。ポイントは、「一つずつ」というところです。ヒント1だけでは、何のことを言われているのかよく分かりません。しかし、ヒント2、ヒント3と続くにつれて、答えが分かってきます。これは、ヒントが簡単になるからということもありますが、それだけではありません。3つのヒントが全て合わさることで、初めて「ドラえもん」だということが確定できるからです。反対に、一つ一つのヒントは一見無関係にも思えますが、「ドラえもん」のことだと思って読んでみると、3つのヒントは全て関連する内容だということが分かります。分かってしまえば何と言うことのないクイズですが、答えを発見するわくわく感が楽しくて、つい熱中してしまいます。

さて、本校の研究は国語の授業を通して行われていますが、特に「読む」ことに力を入れて取り組んでいます。今年度は「説明的文章」を扱う授業を主に研究しています。

10月15日（金）5時間目。体育館を会場に、4年生の授業を全員で参観しました。「世界にほころ和紙」という文章を読み、各段落の中心となる文を見付ける授業でした。次のような流れです。

まず、4年生の子どもたちは、各段落に書かれている文章を読みました。次に、段落の中心になると考えられる文や言葉に線を引きました。その後、どこに線を引いたのか発表し合いました。すると、困ったことが起きます。ある段落において「全ての文」が発表されたのです。中心となる一文に意見をまとめるはずが、全部大事だ！ということになってしまったのです。つまり、始めに読んだ時点では、子どもたちはどの文が重要なのか判断できていなかったということになります。

そこで、授業をしていた先生は、その段落の「前の段落」に着目させます。そこには、次の文がありました。

「和紙には、洋紙とくらべて、やぶれにくく、長もちするという二つのとくちょうがあります。」

「このようなちがいは、何によって生まれるのでしょうか。」

この段落の内容を押さえることで、子どもたちは、この後の段落では「やぶれにくさ」と「長もち」について説明しているはずだ……と気付きます。そして、改めて「やぶれにくさ」「長もち」という文脈で後の段落を読んでみます。すると、先ほどは「どの文も大事」となっていた子どもたちが、自分たちで中心となる文を見付けられるようになったのです。「段落と文の関連」に目を向けることで、始めは見えなかった中心となる文が見えるようになったということです。

先述の「3ヒントクイズ」のように、「情報同士の関係性」に気付いたからです。

このように、文章の構成に着目することが内容を理解するために大切だということを、この授業を通して学ぶことができました。

この授業の後、11月にも1年生と6年生で授業公開を行いました。1年生では自動車の「しごと」と「つくり」の関係に着目して読む授業、6年生では絵巻物の魅力を伝えるために、同じ絵を二つの方法で紹介する意図を考える授業でした。学校研究ですので、どちらの授業でも「文と語の関連」や「文と段落の関連」など、文章の構造に目を向けることで内容を理解させることをねらいました。6年生の授業では、クロムブックを使って互いの考えを交流する方法も取り入れるなど、今の時代に合った授業の方法についても検討しています。また、12月には特別支援学級の授業からも学び合います。

授業を通して子どもたちを育てるために、今後も全職員一丸となって研究を推進していきます。